

ありあけうみ通信

―有明海魚介類漁の再生を目指す―

第2号
(2013.11.18)



一般社団法人 全国水産技術者協会
Tel. 03-6459-1911 Fax. 03-6459-1912
<http://www.jfsta.or.jp>

技術指針 完成

このたび、(一社) 全国水産技術者協会と四つの機関からなるグループは、水産庁から委託を受け、沖合たいらぎ漁業(潜水器漁)の再生をめざし、覆砂技術を用いた底質の改善等に係る実証試験を通じて蓄積したデータを元に、「有明海における沖合たいらぎ漁業(潜水器漁)再生技術指針(水産庁)」(以下、「技術指針」といいます)を取りまとめました。

本技術指針は、「有明海漁場環境改善技術検討委員会」のご意見を踏まえつつ、有明海の再生を目指す漁業者、行政及び研究機関の方々のために作成したものです。

技術指針は、『覆砂によるタイラギやその他魚介類等への効果』、『覆砂の適地選定』、『施工方法』、『事業コストの試算』及び『漁場管理と漁業管理』等について取りまとめました。

有明海の再生に向けた取り組みのより一層の推進のため、本技術指針をご活用ください。

目次

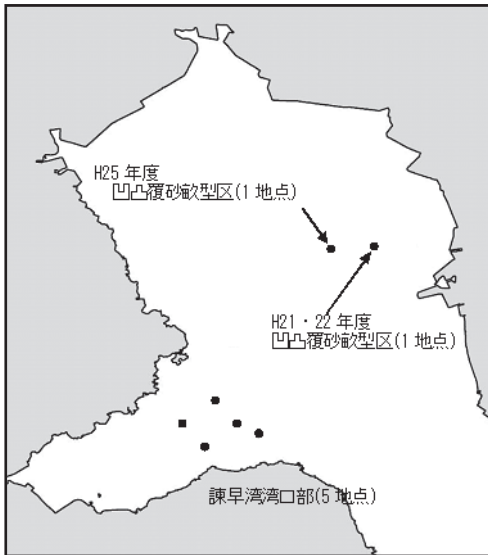
はじめに

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 第1章 有明海におけるタイラギの現状 | 第6章 事前調査と造成場所 |
| 1.1 タイラギの分類 | 第7章 事業計画の検討 |
| 1.2 地理的分布 | 7.1 計画立案の必要性 |
| 1.3 有明海におけるタイラギの生態 | 7.2 目標値の設定 |
| 1.4 生息環境 | 7.3 工法と事業規模の検討 |
| 1.5 漁業と流通 | 第8章 施工 |
| 1.6 たいらぎ漁における問題点 | 8.1 施工事例 |
| 第2章 たいらぎ漁の再生とは | 8.2 施工管理基準 |
| 2.1 たいらぎ漁における問題点とその解決手法 | 8.3 施工時期 |
| 2.2 覆砂によるたいらぎ漁の再生 | 第9章 漁場管理と漁業管理 |
| 第3章 覆砂によるタイラギの生産効果 | 9.1 漁場管理 |
| 3.1 稚貝 | 9.2 資源の把握と漁業管理 |
| 3.2 成貝 | 第10章 タイラギの漁獲後の取り扱いと凍結貯蔵 |
| 3.3 成長 | 第11章 順応的管理 |
| 3.4 その他の効果 | 11.1 漁場環境およびタイラギのモニタリング |
| 3.5 覆砂による漁場環境の改善効果とタイラギの増産に関する考察 | 11.2 漁業情報システムの構築と運用 |
| 3.6 経済効果 | 第12章 事業コストの試算 |
| 第4章 再生事業の実施手順 | 12.1 薄まき覆砂 |
| 4.1 事業の進め方 | 12.2 凹凸覆砂畝型 |
| 4.2 事業実施体制 | 第13章 たいらぎ漁の再生について |
| 第5章 覆砂による漁場造成の適地 | おわりに |
| 5.1 漁場環境からみた適地 | |
| 5.2 漁場形成からみた適地 | |
| 5.3 漁業経済からみた適地 | |
| 5.4 適地のまとめ | |

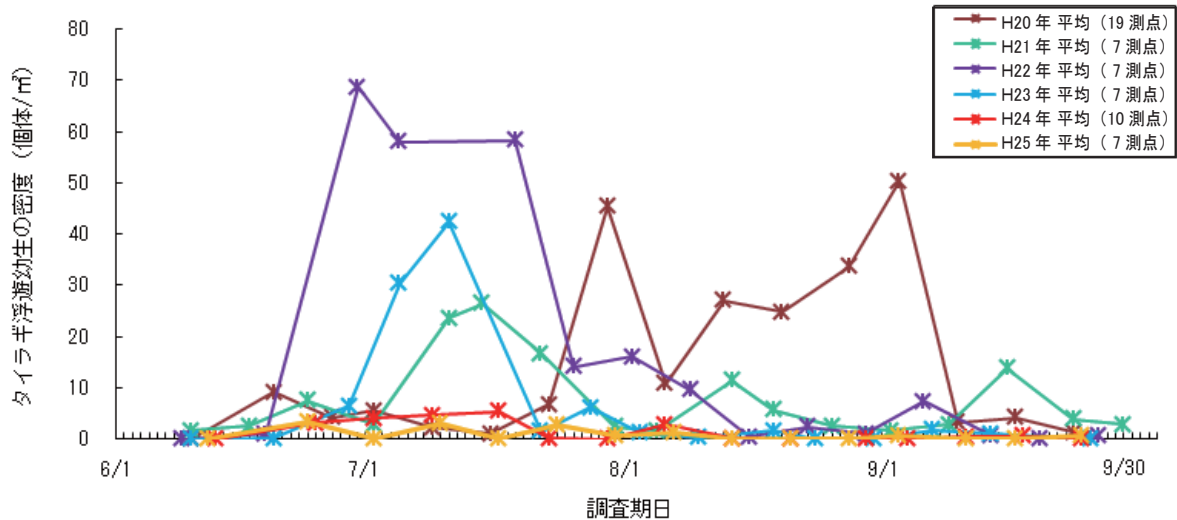
今年度の調査

①今年度のタイラギ浮遊幼生の出現状況

平成二十五年六月十二日から九月二十五日の期間で、諫早湾湾口部（5地点）、平成二十一・二十二年度覆砂区（1地点）および平成二十五年度覆砂区（1地点）でタイラギ浮遊幼生調査を行いました。調査地点は年度により異なりますが、浮遊幼生調査は平成二十年度から調査を行っています。タイラギ浮遊幼生は、昨年度それまでに比べて少ない状況でしたが、今年も少ない状況が続いています。



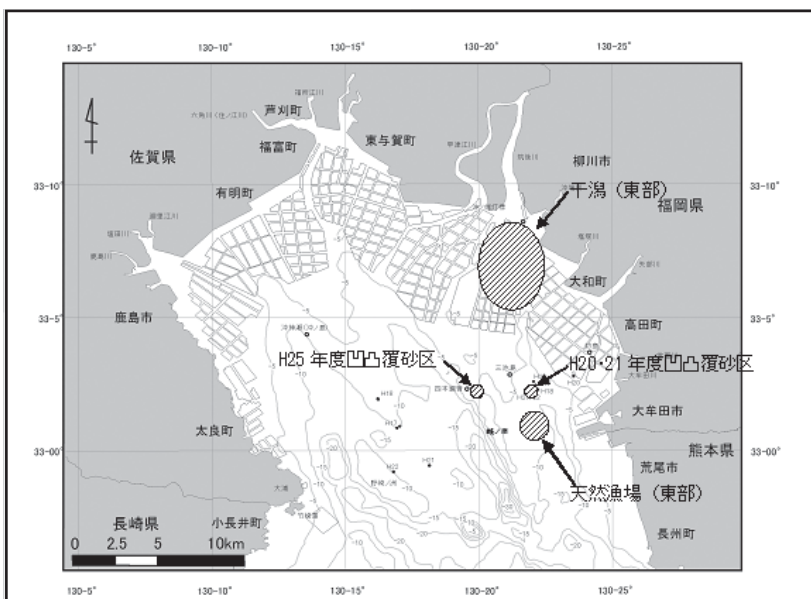
今年度のタイラギ浮遊幼生調査地点



タイラギ浮遊幼生の出現状況（平成 20～25 年）

②今後の調査

タイラギの立枯れへい死の原因を解明するため、立枯れへい死が発生しやすい十一月に天然漁場（峰ノ州周辺）、干潟（福岡県側）および2箇所の試験覆砂区において、潜水士によりタイラギを採取します。あわせて、タイラギの餌となる海水中の懸濁物および底泥中の微細藻類を採取し、タイラギの餌料環境や健康状態について確認します。



11月調査の調査地点